

*** 今日の健康 (7月) ***

< コロナ治療薬 >

新型コロナ治療薬として点滴薬や、経口薬の使用が許可されると、新型コロナ感染症は簡易式の診断薬もあることから2類感染症からインフルエンザ相当の5類感染症に格下げされるかも知れません。

6月4日報道によると、米国で5月26日に新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の軽症から中等症の高リスク成人・小児患者を対象とした治療薬として sotrovimab (VIR-7831) が、米国食品医薬品局 (FDA) より緊急使用許可 (EUA) を取得しました。



新型コロナウイルス感染症に対する抗体医薬 sotrovimab (VIR-7831) は英グラクソ・スミスクライン (GSK) が米ヴィア・バイオテクノロジーと提携し開発したコロナ回復者由来の中和抗体で、ウイルスに対し正常細胞へのウイルス侵入を防ぐ中和活性だけでなく、感染した細胞を除去するエフェクター機能も備えている二重の抗ウイルス作用があります。

海外の臨床試験で軽症～中等症の患者に対する効果を確認し、非臨床の実験データでは、英国、ブラジル、南アフリカなどで増えている各変異株にも効果を確認しました。

同薬剤は今回流行している新型コロナウイルスと、2003年に流行した重症急性呼吸器症候群 (SARS) のウイルスに共通した抗原部位に結合するため、抗体が効かなくなる「エスケープ変異」が生じにくい特長もあります。

sotrovimab (VIR-7831) は米国で軽症～中等症患者のうち、高齢者や基礎疾患があるハイリスク患者に対する治療薬として実用化する予定で、これらの患者約1300人を対象に行った海外第3相臨床試験では、重症化・死亡のリスクを85%低下させる結果を得て、このデータを根拠に3月に米国でEUAを申請していました。

また、予防効果を検証する臨床試験も計画しており、米国申請したのは点滴で投与する静注製剤ですが、シリンジで筋肉内注射する製剤も開発中です。T細胞のエフェクター機能を高めたもう一つの中和抗体 (VIR-7832) も開発しています。

GSK 日本法人によると、日本は国内導入に向けて検討を始め、臨床試験の実施方法や時期は非開示ですが、海外と連携しながらいち早く届けられるよう準備しているとのこと。

経口薬としては、米製薬大手メルクが開発中の経口薬「モルヌピラビル」が臨床試験中で、摂取や保管が容易な経口タイプの治療薬として、感染の初期段階に自宅で摂取でき、ワクチンだけでは感染を完全には抑えられない現状を踏まえ、ワクチンを補う重要な役割を担うとされています。

日本では、「中外製薬」が今年3月、抗体を使った薬について国内で臨床試験を始め、これは海外では軽症者らの入院や死亡のリスクを7割減らす結果が出ており年内の承認申請を目指しています。

北里研究所は、ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智・北里大特別栄誉教授が開発に貢献した抗寄生虫薬「イベルメクチン」について、新型コロナ治療に使えるよう、医師主導治験を行っています。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り もみじ山公園バス停裏